平成 26 年度施設運営の全体概要

１　施設運営の基本方針

平成 26 年度も昨年度に引き続き，次の三点を施設運営の基本方針に定めて運営を進めてきました。

〇　特色ある教育事業の実施を通じて青少年教育のナショナルセンターとしての役割を果たすなど教育事業の充実に努める。

〇　研修支援事業の一層の改善･充実に努力するとともに，利用者の安定的な確保に努める。

〇　地域との連携を深め，地域の運動拠点として「体験の風をおこそう」運動，「早寝早起き朝ごはん」運動の推進を図る。

２　教育事業について

教育事業は，当施設の看板事業であるタートルズ・キャンプを引き続き実施したほか，通学合宿の対象校を２校とし，同日程で実施するなどその充実に努めました。成果の把握とその普及の観点では，いくつかの事業で IKR 調査や児童用情動知能尺度（EQSC）等の手法を取り入れるとともに，通学合宿の報告書を作成し関係機関に配布予定，ＨＰに掲載予定です。

教育事業の概要は，以下の通りです。

（１）看板事業

タートルズ・キャンプ《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

児童養護施設との密接な連携により，課題を抱える子供達の自立支援を目的とした事業「タートルズ・キャンプ」を実施しました。今年度も，３つの児童養護施設と１つの情緒障害短期治療施設の参加で，事業開始から５年目を迎えました。本事業名の由来のとおり「自分の殻から顔を出し，まわりを見る勇気をだしてほしい。様子を見て，少しずつ手足をだし，ゆっくり一歩ずつ自分のペースで歩みだすことができるように・・・」が確実に実感できる子供たちの成長を見ることができました。

（２）モデル事業

通学合宿　テンちゃん一家の一週間（「早寝早起き朝ごはん」運動推進事業）
《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

小学生を対象に当施設から学校に通いながら規則正しい生活リズムの育成とよりよい仲間づくりを目的として通学合宿（6 泊 7 日）を実施しました。今年度は，滝沢市立滝沢第二小学校と滝沢市立滝沢東小学校の４～６年生の児童４１名が参加しました。生活の基盤となる「衣・食・住」を児童自らの力で取り組み，体験しました。また，普段は家族でテレビを視聴したり，いつもの家族とのだんらんの時間は，参加者同士で交流を図りながら，レクリエーションや創作活動などをして過ごしました。自分でやるべきことはしっかり行い，学生ボランティアと楽しい時間を共有しました。

（３） 東日本大震災復興支援事業

さんりく体験！探検ツアー　最初の一歩　～岩手横断３７０km～

《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

東日本大震災から４年が経過し，被災地も徐々にではあるが復興に向かっています。この中で，「震災を風化させない」「忘れない」ために，岩手県の将来を担う児童生徒たちが被災地を訪問し，沿岸地域の人々と自然体験活動をとおして触れ合う中で，被災地復興の現状を理解し，復興支援の一役を担う意識を高めることを，目的として今年度から始めた事業です。１日目は「さんりくを知る」というテーマのもと，サッパ船体験と民泊を行いました。２日目は「さんりくを学ぶ」というテーマのもと，「宮古市田老仮設商店街たろちゃんハウス」「田老地区の防潮堤」の見学を行いました。３日目は「さんりくへ漕ぎ出す」というテーマのもと「シーカヤック体験」を行いました。参加者からは，震災に関する学びに積極的に取り組みたいという気持ちがうかがえました。

（４） 国際交流事業

① 日独学生青年リーダー交流事業（文部科学省委託事業）

ドイツ団の１７名は，ドイツ国内でボランティア活動を行っている大学生を中心とした方々でした。交換留学生として留学する学生のお世話をしたり，障害を持つ子供の家庭をサポートしたり様々な社会貢献をされていました。

岩手山プログラムでは，岩手県立陸中海岸青少年の家を拠点に，釜石市，大槌町，山田町の３つのグループに分かれて現地を訪れ，社会貢献をしている青年と交流を深め，復興に関わるボランティア活動を行いました。現地を訪問し，津波による予想以上の被害を目の当たりにして，涙を流すドイツ団員もいました。震災直後に全国各地からボランティアが被災地を訪れたことを聞き，驚いているドイツ団員もいました。意見交流会では，ドイツ団員より被災地で頑張る青年リーダーへ励ましのメーセージをもらい，日本人リーダー達は，復興への意欲を高めることができました。その他，願いがかなう忍び駒作りや滝沢市表敬訪問等を行いました。

② Kid’s　together　えいご de キャンプ　in　テンパーク

被災地域の久慈市・洋野町・野田村・普代村・岩泉町・田野畑村・陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・住田町・大槌町・山田市（各回の事業ごとの募集地域は４市町村から７市町と違いあり）の子どもたちを対象に「kid’s together　えいご de　キャンプ in テンパーク」を HSBC グループと NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター（NICE）との連携事業として実施しました。この事業は，平成２０年度に始まった事業で，HSBC グループが資金とボランティアを提供し，NICE がキャンプの企画・運営を担当し，当施設が活動場所と指導者を提供するという三者による連携協力事業です。今年度は，自然体験と創作活動を中心としたサマーキャンプとハロウィーンパーティーをテーマとしたオータムキャンプ，安比高原スキー場でのスキー・スノーボード体験をメインとしたウインタ

ーキャンプを 2 回の計４回実施しました。キャンプは，日・英 2 言語で運営され，参加した子供たちは HSBC グループと NICE の外国人スタッフ・外国人ボランティアと交流することにより英語・外国文化に触れ有意義な時間を過ごしました。

（５）指導者養成事業

① How to ボランティア，体験活動支援セミナー

《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

青少年教育施設でのボランティア活動の基本を学ぶ「How to ボランティア」と，実際に「テンパークちゃれんじくらぶ」に参加した子供達のグループリーダーとしてボランティア活動の実践を学ぶ「体験活動支援セミナー」を開催し，それぞれ多くの高校生・大学生が参加しました。

② 上記のほか，岩手県内の 5 つの公立青少年教育施設と連携した「岩手県内青少年集団宿泊教育施設職員合同研究会」（宿泊連）を岩手県立陸中海岸青少年の家で開催し，事例発表で教育事業の成果などを発表し，その普及に努めるとともに，職員同士のネットワーク構築を図りました。また，岩手大学と連携して「教員免許状更新講習」を実施しました。

（６）普及啓発事業

テンパークまつり 2014《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

当施設が提供する活動プログラムを体験し，施設自体を広く地域の方々に知っていただくことを目的として「テンパークまつり 2014」を開催しました。今年度も 1 泊 2 日（土・日）の親子宿泊体験と日曜日のみのテンパークまつりの 2 部構成で実施ました。幸いの好天に恵まれ，延べ 4 千人を超える家族連れが来場し，ステージ発表，スタンプラリー，創作活動など室内外のプログラムを楽しみました。

（７）その他の事業

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

集まれ！吹奏楽の仲間たち～ミュージックキャンプ 2015 in テンパーク

《平成２６年度「体験の風をおこそう」運動協賛事業》

子どもゆめ基金リレーションシップ事業として，「集まれ！吹奏楽の仲間たち～ミュージックキャンプ2015 in テンパーク～」を吹奏楽を愛好する小・中学生とその指導者を集めて，技術の向上を図りながら交流を深めました。今回は，小学４年生～中学３年生及びその引率者，計623名（小学校6校，中学校23校）が集まりました，東北地域では例をみない規模の指導者数と参加者数で実施でき，子供達からも指導者からも高い評価をいただきました。この事業は平成２６年度で終了しますが，このキャンプを引き継ぐ団体が新たに発足し，キャンプのノウハウをもとに平成２７年度も子どもゆめ基金の援助をもとに計画される予定です。

３　研修支援について

研修支援については，利用者の立場に立った業務運営の改善に努め，利用者の研修をサポートするという意識を持って，笑顔での利用者対応を心掛けてきました。

また，利用者数の年間目標を定めるとともに，日常的に施設内の活動場所の安全点検を行い，安心・安全で清潔な活動環境を確保することに努めました。

（１）研修指導・支援

利用団体の研修目的の実現のために，利用団体の立場になって研修支援を実施しました。具体的には，当施設職員によるきめこまやかな事前相談を行うとともに，事前相談に来られない団体にも，電話連絡を密にし，利用前の不安をなくせるように努めました。

また、野外炊事，プロジェクトアドベンチャー活動，七宝焼，スキー研修などにおいて直接指導を実施しました。研修の質を高めるため職員研修を行い，より多くの職員が対応できるようにしました。冬の活動プログラムの充実のため，昨年提供を開始したスポーツ雪合戦のプログラムについても実施団体が増えてきています。

（２）施設の利用状況及び利用者の評価

平成 26 年度の年間目標として，総利用者数 113,000 人以上，宿泊室稼働率 55.2%以上を目標としていましたが，実際の利用状況は，総利用者数 113,513 人，宿泊室稼働率 53.5%となりました。利用者数は目標に達成いたしましたが，日帰りの利用者が多く，宿泊稼働率では目標に届かない形となりました。予約をしていたもののキャンセルや大幅な人数減・泊数減が多く，キャンセル対策が課題となっています。今後とも広報活動や成果普及活動を行い利用者の確保に努めたいと考えています。

利用団体からのアンケート「当施設を利用しての総合的な満足度」をみると，「満足している」と回答しているものが 89.9%，「やや満足している」と回答しているものが 9.8%，両者を合わせると 99.7%が「満足」と回答し，これまで以上に高い評価を得ることができました。利用団体からの意見・要望等については，事務連絡協議会でその内容を確認し，対応できるものはすぐに改善するように心がけています。

（３）利用者の安全で快適な生活環境の確保，危機管理

利用者が安全・安心で清潔な生活環境のもとで，快適な研修活動が実施できるように，施設設備の整備・点検を定期的に行うとともに，想定される様々な災害・事故等が発生した場合の具体的な危機管理マニュアルを策定しています。

今年度はそりすべりの活動時に大きな怪我人がでる事故が発生してしまい、団体の自主活動においても職員の安全に対する指導が必要であると所内で話し合い、そりすべりの安全マニュアルを作成し、団体への配布と職員の指導内容を決定しました。

クマ対策としては，利用者が野外活動を行う前にコースを職員が爆竹を鳴らしてから活動に入っていただくとともに、クマを目撃した場合についての資料を作成し、団体に配布しています。クマ出没情報には屋外で活動する団体には速やかに伝え，屋内への退避等の対応を取っています。スズメバチ対策については，トラップを自作し敷地内各所に設置するとともに，巣を発見し次第駆除しています。

今年度はさらにマイマイガが大量発生し、駆除に追われた１年でした。その結果キャンプ場については７月２０日～８月３日の１４日間を利用停止とすることとなりました。来年度についても発生が予測されるため、早期の段階での駆除作業に重点を置くことにしております

４　地域との連携，社会貢献について

施設の運営に当たっては，様々な団体・個人と連携し，協力をいただいています。また，社会教育実習生等の受け入れを行っています。

（１）教育事業における連携・協力

教育事業は，その目的・内容によって地域の団体との連携が不可欠です。教育事業における主な連携先は以下の通りです。

〇タートルズキャンプ・・児童養護施設，みちのくみどり学園，青雲荘，和光学園
・情緒障害児短期治療施設，ことりさわ学園
〇教員免許状更新講習・・岩手大学・教員免許状更新講習連絡協議会
〇テンパークまつり・・・児童養護施設・岩手県教育委員会・地元団体・企業など
〇通学合宿・・・・・・・滝沢市立滝沢第二小学校・滝沢市立滝沢東小学校
滝沢市教育委員会
〇Kid’s　together　えいご de キャンプ・・NICE，HSBC，陸前高田市教育委員会など
〇いわてしぜんとあそぼキャンプ・・・・・アウトドアチャレンジ岩手県実行委員会

（２）滝沢市との連携・協力

滝沢市と国立岩手山青少年交流の家は，青少年の健全育成と地域社会の発展に寄与することを目的に，連携・協力に関する協定を締結しました。今年度は，滝沢市産業祭りと滝沢市福祉ボランティア祭りに交流の家のブースを出させていただき，多くの子供たちに体験活動を提供することができました。また，交流の家のニュースレター「Red　Pine」を年間４回（３か月に１度）滝沢市の広報と一緒に市内全戸に配布していただいています。

（３）岩手県内の青少年教育施設との連携・協力

例年，岩手県内の青少年教育施設（県立県北・県南・陸中海岸青少年の家，盛岡市立区界高原少年自然の家）と合同で集団宿泊教育施設連絡協議会（宿泊連）を開催し，研究協議や情報交換を行っています。今年度は，陸中海岸青少年の家で開催され，山田町観光協会事務局長の湊敏氏の講演が行われた後，管理・指導・食堂部門の分科会協議が行われました。

（４）ボランティアとの連携・協力

子供を対象とした教育事業の際に大学生や高校生などにグループリーダーとして運営の補助をしてもらうとともに，広大な施設の環境整備は職員だけでは限界があるため，地

域住民からなるボランティアの協力により，草刈り・花壇整備などの環境整備を行いました。

①　施設ボランティア（法人ボランティア）

大学生や高校生などによるボランティアを育成し，希望者には法人ボランティアとして登録してもらい，様々な教育事業に協力をいただいています。今年度 98 名のボランティア（新規 56 名，継続 42 名）が登録していて，15 事業・延べ 243 名に協力いただきました。

（５）社会教育実習生・インターンシップの受け入れ

今年度も 43 名（盛岡大学 41 名，筑波大学 1 名，大正大学 1 名）の社会教育実習生の受け入れを行いました。また，インターンシップ 4 名（岩手大学 1 名，盛岡大学 1 名，岩手県立盛岡短期大学 2 名）の受け入れを行いました。

５　職員の資質向上について

事業における企画力・指導力・安全指導，利用者との接遇サービス・コミュニケーション能力，職務遂行上の専門能力，危機管理，服務規律等の職員の資質向上を目指し，職員研修を行いました。施設内研修として 25 件（参加者延べ 283 名）の研修を実施したほか，外部の研修には 9 件（参加者延べ 11 名）の研修を受講しました。

こういった研修は非常に重要と考えておりますので，今後も積極的に実施・受講し，職員の資質向上を図り，全職員が利用者に対し，親切・丁寧で迅速な対応を心がけたいと考えております。